

甲南大学ビジネス・イノベーション研究所 第31回研究会
2016年12月14日(水) 16:20~17:50

グローバル経営とアジア 総合商社からみたグローバルビジネスと人材

丸紅株式会社 経済研究所 シニア・アドバイザー（前副所長） 猪本 有紀 氏
（イントロデューサー 経営学部・BI研究所兼任研究員 杉田俊明）

甲南大学ビジネス・イノベーション研究所第31回研究会が2016年12月14日（水曜）、甲南大学岡本キャンパス263教室にて開催されました。今回のテーマは「グローバル経営とアジア 総合商社からみたグローバルビジネスと人材」でした。

日本を代表する総合商社の一つ、丸紅の猪本有紀氏（丸紅経済研究所前副所長・現シニア・アドバイザー）が講師を務めるため、わざわざ東京から駆けつけてくださいました。司会とコーディネーターは本学の杉田俊明氏（経営学部教授。ビジネス・イノベーション研究所兼任研究員）が務めました。



テーマや内容に多大な関心が示されたように、研究会には学内外から多くの方が参集され、予定の時間を超えて熱心な討議が行われました。

猪本有紀氏は講演において、まず、総合商社とは何かについて説明しました。

あらゆる産業での事業展開、さらにグローバルでの事業展開を図る商社は単に貿易、つまり、モノの売買を行っているだけではありません。投資を含め、川上から川下までビジネス全体において役割を果たし、バリューチェーンの構築と運営を通じて貿易の収益と合わせて投資の収益をパートナー企業と共に確保し、共存を図っているとのことでした。

そして、これらのことを分かりやすく説明するために、猪本有紀氏は自社事業展開の実際の写真などを示しながら、穀物貿易の展開とそれを支える投資の例、紙パルプ産業におけるバリューチェーンの構築やメーカーと共同での製紙事業展開の例、フィリピン・マニラ首都圏上下水道事業への参画の例、ASICS Asia社への出資参画とアセアン・南アジア消費市場でのマーケティングの例などを紹介していました。

後半では、グローバルビジネスを担う人材やそのあり方について、猪本有紀氏は自らの体験を熱く語り、とりわけ来場した多くの若者に応援のメッセージを寄せていました。

学生時代に英語本の一部を丸暗記したりして英語の夢をみるほど勉強したことにより、後のオーストラリアでの勤務や本社での海外店運営管理業務などのベースを成した例に、来場した多くの若者が感心していました。

最後に、猪本有紀氏は「常識」に対する認識と、「常識」の持ち方、「常識」の打ち崩しと「常識」の創出などについて自らの見解を披露していました。

経済発展や技術の進歩に伴い、また、世界政治のバランスの変化が「常識」を変えてゆくことがあります。グローバルで生きるために、絶えず新たな「気付き」を体験し、絶え間ない努力を続ける必要がある、と猪本有紀氏が講演にて強調していました。

杉田俊明氏は猪本有紀氏の講演をまとめ、グローバルビジネスを担う人材には現代の商社パーソンを参考に、グローバルベースにおける情報の収集、整理、分析、応用力の必要性、経営全体の知識と総合運営力、コミュニケーション力などの必要性がこの講演の内容により再確認できたことを指摘し、今回の研究会の意義と成果を強調して研究会を締めくくりました。

（概要作成 杉田 俊明）